

長久手町の文化財
十四

町指定文化財(口) 前熊の山車

はじめに

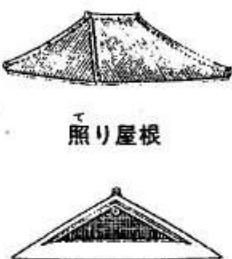
前熊地区に「やまぐるま」、「お天王ぐるま」、「ちょうちんぐるま」と呼ばれる、古い一台の山車があります。

これは、江戸時代から、前熊村の天王社（津島神社）のお祭りで、引かれるもので、いつもは多度社境内の山車蔵に納められていました。現在は老朽化が進み、危険なので村内引き回しはしていませんが、毎年七月のお祭りの日には、例年どおりに赤い提灯を点し、緋の幕を垂らして、祭りの主役となります。

Digitized by srujanika@gmail.com



て照り起り



て
照り脚本



起り屋根

作であろうと推定されています。
前熊のお天王まつり
お天王まつりは、い、うまでもなく、牛頭天王を祭神とする津島神社のお祭りです。牛頭天王は、疱瘡や疫病など流行^{ひやう}やり病^{びやく}を防いでくれる神なので、祭りの規模に差はあれ、前熊に限らず、どこの地域でも行われます。ことに前熊は天王信仰があつく、祭りの規模も大きく、今まで続いたということの裏には、中世末期から近世初頭にかかる、前熊村の近世集落発生につながる信仰と結びついていたこ



▲前帳の山裏

今年のお天王まつりは、七月十二日(日)に多度社境内で行われます。

三

されました。

以上の理由で、昭和五十八年六月十一日、町有形民俗文化財に指定

三 地元の人々の生活や信仰、祭り習俗と密接に結びついて、現在まで保存されてきた。

製作年代が江戸時代後期以前に
遡り、名古屋地方の山車の発達過
程を示すものとして貴重。

町有形民俗文化財に指定
前熊の山車は、

つりの形が、前熊では文政
前に遡ることは確かによ

たかについては触れていません

のよつた形態の祭りがいつ始まつ

10

116

卷之三

▲高欄の下の窓の丸窓

とによるで
（一五七七）に、時の前熊寺住職
の良椿和尚が、前熊寺鎮守のため
に祀つたもので（註一）、同寺の山
号「天申山」の由来になつた神です。
天王鎮座の時から、何らかの
形で天王祭は行われていたでしょ
うが、現在のように、赤い提灯を
点した山車を引き、その高欄で山
神樂を奏で、打ち囃子太鼓を打ち
くの村人が鳴らして、村内を引き回す（現在
亡くなつたは行われない）という形が行われる